

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

No.85  
11月号

2012年11月15日発行

町の木「イチヨウ」  
旧き学び舎を彩る

特集

## 町長と語るつどい



今月の表紙

平成24年度中に一部を残し解体されることとなった旧和知第二小学校校舎。シンボルとして多くの子どもたちを見守った「イチヨウ」も樹齢が100年を越え、衰えが見られることから、12月に府立林業大学の生徒らにより土壌改良などの処置が施される予定です。

## No.85 CONTENTS

- 2 **【特集】町長と語るつどい**
- 8 「音楽」と「食」のコラボレーション!  
レトロロックフェスティバル  
in京丹波
- 10 家族介護を通して男女共同参画を考える  
きらりセミナーⅡ  
—京都府ワーク・ライフ・バランス  
地域別交流会—
- 12 京丹波町国民健康保険の財政状況をお知らせします
- 14 Dr's Message いきいき健康術
- 15 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2012
  - 農地活用の状況を説明  
—農地等活用ボランティア情報交換会
  - 高齢者による事故防止啓発  
—高齢者交通事故防止キャラバン隊
  - 住民ら巨大なダムに見入る  
—畑川ダム見学会
  - 迫力ある太鼓の音色響く  
—DONと来い・丹波八坂公演
  - くり振興に新商品も一役買う  
—京都丹波くりまつり
  - ボランティアが収穫を支援  
—南丹おいしい食の応援隊
  - 特選三点などを表彰  
—交通安全啓発ポスターコンクール表彰式
  - スポーツの秋真っ盛り  
—シルバーオリンピック
  - 秋晴れのもと出会いを楽しむ  
—グリーンランドみずほdeときめきツアー
  - 音楽と食を楽しむ野外イベント  
—和音楽
  - 都市住民と共に収穫  
—丹波黒豆枝豆収穫祭
  - 軽スポーツで交流  
—身体障害者体育大会
  - 力作が地域の安全を守る  
—須知高校生飛び出し防止看板寄贈
  - 黄金色に輝くカエル 収穫  
—「あっぱれたんぼ」稲刈りイベント

# 町長と語るつどい 特集

寺尾町長が町民の皆さんと直接向き合い対話する取り組み「町長と語るつどい」。今年六月二十九日―九月六日まで開催し、七百三十八人の町民に参加いただきました。つどいでは、平成二十四年度予算と主要事業についてスクリーンを使って報告・説明した後、町政に対する率直なご意見をいただくなど、まちづくりについて語り合いました。今回は、懇談の場でお出されたご意見やご質問など、主なものをお伝えします。

## 税・行財政について

**問** 町債(借金)と公債費(借金の返済)の金額があまり変わらない金額ですが、それぞれ内訳はどのようなものですか。

**答** 町債の主なものは、今年度実施する給食センターの建設や町道の整備などです。公債費はCATV施設、教育施設、町道の整備など、過去の事業に要した経費の返済に充てるものです。

## 跡地利用について

**問** 統合・廃校になった学校の跡地利用の活用について、福祉施設などへ貸し付け

**答** 本年度中に沓掛から名神の大山崎イ

## 水資源・道路・交通について

**問** 京都縦貫自動車道の完成は平成二十六年のいつ頃になるのか見通しはありますか。

**答** 高原小跡地は丹波高原荘に、三ノ宮小の校舎などは山彦苑に無償で貸し付ける方向で検討しています。明俊・三ノ宮小の体育館や質美小学校は地元は無償で貸し付け、管理費用の一部を助成しています。貸付期間は、どの施設も期限を設定しています。

■町長と語るつどい参加者数 (表1)

会場名	開催日	参加者数(人)
山村開発センターみずほ	6月29日	43
八田公民館	7月 2日	16
梅田振興センター	7月 4日	37
東又公民館	7月 6日	32
粟野公民館	7月10日	18
三ノ宮基幹集落センター	7月12日	24
質美振興センター	7月18日	34
升谷公民館	7月20日	33
大迫公民館	7月24日	38
下粟野公民館	7月26日	24
和知ふれあいセンター	7月30日	40
わち農村環境改善センター	8月 1日	22
広野公民館	8月 3日	27
竹野基幹集落センター	8月 7日	58
健康管理センター	8月 9日	55
実勢区公民館	8月21日	24
蒲生野公民館	8月24日	28
曾根公民館	8月27日	41
上豊田住民センター	8月29日	24
豊田区集会所	8月31日	36
下山集会所	9月 4日	38
清涼館	9月 6日	46
合計		738



**問** 丹波パーキング整備事業については、現在用地取得などが進められていると思いますが、現時点でどこまで決まっていますか。

**答** 丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点施設は、京都縦貫自動車道の開通に合わせて整備していくため、現在庁内にプロジェクトチームを設置して取り組んでいます。地元産品を食べてもらい、また、買ってもらおう施設として町内にお客さんをお呼び込みたいと考えています。事業運営主体は今後決定する予定です。

**問** 丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点施設の整備に取り入れられる「DBO方式」とはどのようなものですか。

**答** Dはデザイン(設計)、Bはビルド(建設)、Oはオペレート(運営)を意味し、民間業者に一連作業を委託する方法です。

**問** 畑川ダム周辺の整備について、自然環境を生かした環境拠点づくりはできませんか。

**答** 畑川ダム周辺の整備については、自然環境を生かした環境拠点づくりはできませんか。

**答** 町としては、畑川ダムを町づくりにかかしていきたいと考えています。地元の要望を中心に、息の長い整備をしていきます。



本体工事が完成し、試験的に満水まで水をためる「試験湛水」中の畑川ダム

**問** アシなどの雑草除去など、河川の維持管理をしてもらえますか。

**答** 河川の維持管理については、各地区に助成金を出して対応をお願いします。色んな制度がありますので、現地を確認して必要に応じて対応します。

**問** 組の集会所は使用する日数も少なく上・下水道の使用料も少ない。減免措置はありませんか。

**答** 施設の建設に要した費用なども使用料には含まれ、やむを得ない部分もあります。ご理解をお願いします。

## 町営バスの運行について

**問** バス料金半額の社会実験は、どのような理由で行っているのですか。

**答** 以前に行ったときは、期間が短かったので、今回十月末までを期間として実施しています。今回の結果や利用者のご意見などを踏まえ、運行方法や運営方法を検討していきます。公共交通機関を守るための社会実験と捉えています。

**問** 乗客のいない町営バスが走っていると思うのですが、必要な人が重点的に利用できるような方法を考えてもらえませんか。また大型のバスは必要なのでしょうか。

**答** デマンドが一番効率が良いとは思いますが、現在実現までには至っていません。町営バスはスクールバスの空き時間を利用した運営となつていますが、車両を小型化することも困難な状況です。社会実験の基礎資料を大事にして、なんとか町営バスを継続していきたいと思えます。

**問** 町営バスの乗車人数や収益は増えていくのでしょうか。

**答** 乗車人数は増えてきていますが、単純に収益増とはなっていない状況です。

**問** JR和知駅に特急が止まらなくなり、園部駅まで行っています。園部以北の



利便性が失われているので、町営バスが電車と接続できる運営を考えてもらえませんか。

**答** 現在少しずつ改善しています。実態に合った運営をしていきたいと考えています。

## ケーブルテレビについて

**問** 帰宅が遅くなった時など、お悔やみの放送を聞けないので、ケーブルテレビのテロップなどで流してもらえませんか。

**答** 放送については、五回分までは録音され聞くことができますのでご利用ください。

**問** ゲートボールやグラウンドゴルフなどの大会を開催するときに、雨天の場合の連絡方法として、CATVの放送を活用できませんか。

**答** 対象地域への個別放送を活用いたできますのでご相談ください。

## 教育振興について

**問** 亀岡市で児童などが犠牲となった事故があったが、本町も危険箇所を確認などはされたのですか。また、地域で安全について考えることも必要ではないでしょうか。

**答** 町内の幼稚園や小・中学校の通学路の確認を行い、七十七ヶ所の危険箇所を確認しました。町道については、再点検を行い、対応したいと考えています。また、子どもたちへの安全教育の徹底や地域の見守り隊の皆さんにも支援をいただき、交通安全に取り組みしていきます。

**問** 町内の幼稚園や小・中学校の通学路の確認を行い、七十七ヶ所の危険箇所を確認しました。町道については、再点検を行い、対応したいと考えています。また、子どもたちへの安全教育の徹底や地域の見守り隊の皆さんにも支援をいただき、交通安全に取り組みしていきます。

**問** 大津市でいじめによる大変な問題が発生しましたが、本町ではそのようなことはありませんか。実態を把握するためのアンケートなどは実施されたのでしょうか。

**答** 毎年実態把握のためのアンケートを実施し、各学校からは毎月生徒指導上の問題などの報告を受けています。昨年度はいじめの報告はなく、今年度も七月に一件の報告がありました。解決しました。先生方には注意を払い、緊張感を持って取り組んでいただいています。

**問** 旧瑞穂病院の跡地が給食センターとして適正なのでしょうか。ほかに廃校舎などを有効に使えないのでしょうか。

## 産業・観光振興について

**問** 第一次産業を主体とした地産地消を推進することとされていますが、畑川ダムの竣工による企業誘致を積極的に行うことと矛盾していませんか。

**答** 企業誘致に関しては、ダムの完成により農業法人の誘致も考えられます。農林業をしっかり守るという思いは持っています。最近では、インターネットでの販売が成功した事例もあります。この町に来ていただいた人がファンになり、直接買い求めているだけのようにすることが究極の成功だと思っています。

**問** 商店街の物品販売は大変厳しい状況です。プレミアム商品券を来年度も実施してもらえませんか。

**答** プレミアム商品券は町商工会の取り組みですが、支援について引き続き前向きに考えていきたいと思えます。

## 有害鳥獣対策について

**問** 安井地区で実施されている「ドロップネット」による捕獲とはどのようなものですか。費用負担はどのような状況ですか。

**答** 一定の広さの網を設置して餌付けし、カメラで監視しながら吊り上げてある網を落とすものです。今までに三回

実施され、十四頭を捕獲されています。費用については設置費は町が負担し、運営費は地元負担です。

## 地域医療について

**問** 病院で診察を受けた後、外へ薬をもらいに行かないといけなくなったが、苦痛に感じる時もあるのではなかろうか。また、薬局付近に車が駐車して、歩いていくのに危険な時があります。駐車禁止してもらえませんか。

**答** 四月から院外処方に変わり、ご面倒をお掛けしています。どうしても行けない場合などは、病院の窓口にお気軽にご相談ください。薬局周辺の駐車については、薬局にお願いをしておきます。

**問** 和知歯科診療所に急患で受診したとき、非常に親切に対応していただきありがとうございました。二階に移設したいと考えています。

**答** 歯科診療所について、そう言っていたらと励みになります。診療所の場所については、二階に移設したいと考えています。

**問** 医師確保奨学金の利用状況はどうなっていますか。

**答** 昨年度の申請五件については、複数の集落を一つの組織に束ねて、地域連携組織として活動される「地域振興会」のような組織からの申請です。まちづくりに関するアンケート、運動会、お祭りなど、使途を細かく制限することなく申請していただいています。平成二十三年度は瑞穂地区三件、和知地区二件に交付しました。

## 消防・防災について

**問** 原発事故や土砂災害に対するシミュレーションはできているのですか。

**答** 原子力防災を含めて、地域防災計画を策定しています。対策としては、現在のところ訓練以外にはないと考えています。

**問** 大飯原子力発電所が稼働し、町内でも三十キロメートル圏内の地域もあります。圏外の地域の防災についてどのように考えているのか教えてください。

**答** 三十キロメートルはあくまで基準であり、町民の皆さんの命と財産を守る立場ですので、状況に応じて全員で避難していただきます。

**問** これからも原発の問題は取沙汰されるところだと思いますが、放射能測定器の貸し出しについて教えてください。

**答** 役場本庁と各支所に一台ずつあります。



地域活性化を目的にイベントを開催し、都市住民との交流を進める自治組織

## 地域支援について

**問** 「住民自治組織によるまちづくり交付金」の申請とはどのようなものですか。

**答** どうしても預かる必要があるときには、対応しています。

**問** 気象警報が発令されると、学校が休校となり、連動して学童保育も休みとなります。しかし、親は警報に関係なく仕事なので、そんなときほど子どもを預かってほしいのですが。

**答** 気象警報が発令されると、学校が休校となり、連動して学童保育も休みとなります。しかし、親は警報に関係なく仕事なので、そんなときほど子どもを預かってほしいのですが。

# まちづくりへの提言 とアンケート結果

つどいでは、町政への質問や意見だけではなく、さまざまな視点から京丹波町のまちづくりを見据えた提言、住み良い環境づくりを目指した要望をいただきましたので、主なものおよびアンケート集計結果をお知らせします。

なお、つどいにおいて持ち帰って検討する旨をお伝えした内容については、区長様を通じて個別に回答させていただきます。

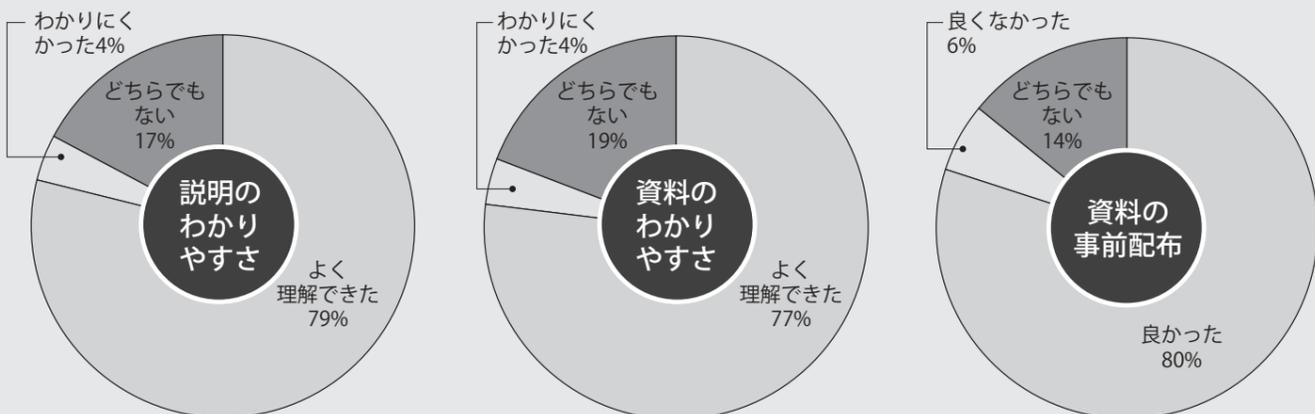
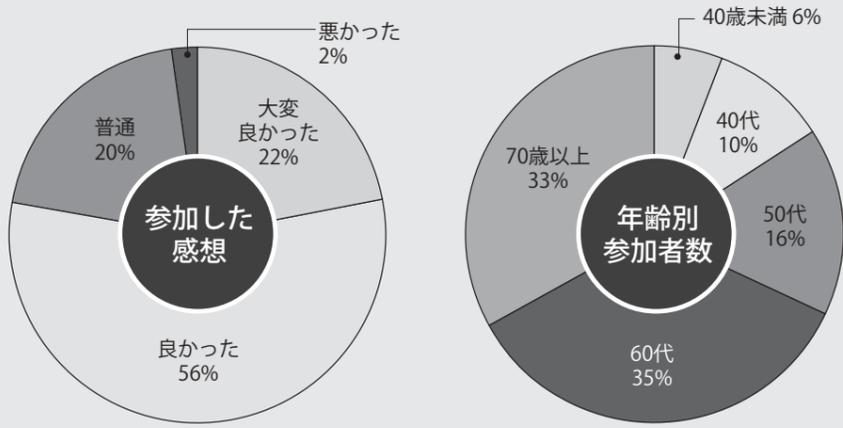
- 町は新規住民に対して、地域住民とともに安心安全な生活を送るために、区に入ることを進めればよいと思いませんか。
- 本町で初めて開催されたNHKラジオ体操会。すばらしい取り組みなので「ラジオ体操の日」を設けてみんなが集う体操会を開催してはいかがでしょうか。

- 「高齢化の先進地」として、元気な老人を援助・支援する福祉の充実に取り組んでほしいです。
- 告知放送でお悔やみの放送はありますが、赤ちゃん誕生のニュースもあればいいのではないですか。心の通った事業、一味違った事業に取り組んでほしいです。
- 町内各区をシリーズで紹介する番組をケーブルテレビで放送してほしいですか。

## 要望・質問について

## アンケート集計結果

来年度のつどい開催に向けた参考とするために実施したアンケートには、参加者七百三十八人中、五百九十七人の方に協力いただきました。アンケート項目は、「年齢」「感想」「資料や説明のわかりやすさ」などで、集計は次のグラフのとおりです。  
なお、自由記入欄に書き込んでいただいた意見などについては、より良い内容で実施できるように検討していきます。



問 随時貸し出しますので、年に何回か測っていただければ状況がわかると思います。

問 自主防災組織育成事業とはどのような事業ですか。また、昨年どれくらいの方々が取り組まれましたか。

答 ヘルメットなどの防災機材の購入に対して、上限を十万円として二分の一を補助するものです。昨年度は一件のみでした。

## 自然エネルギーについて

問 町内にある未開発団地などにメガソーラーを誘致できませんか。

答 町有地でない場所には、本町としては誘致するのは難しいですが、町のいわゆる「塩漬け」土地については積極的に活用していきたいと考えています。

問 自然エネルギーの活用を最近よく耳にするが、町として自然エネルギーを活用し、財源とする考えはありますか。

答 原発に頼らない電力の確保については、自然エネルギーを活用した民間事業者の意欲を支援していくこととしており、町の塩漬け土地などを活用して電力の確保に取り組んでいきたい

と考えています。町が実施主体として事業を行うことは考えていません。

## その他

問 新聞報道があった情報公開度が府内で最下位であったことについて、どのように考えていますか。

答 現状を大変申し訳なく思っています。平成二十五年からは、交際費などを公開できるようにしたいと考えています。

問 区は行政の末端組織と考えたのいいですか。

答 下請け、末端組織という考えは持っていません。対等に地方自治を守っていく立場だと考えています。



今年も双葉町ヘジャガイモを送ったスポーツ少年団の子どもたち

問 東日本大震災の支援（友好町双葉町の支援）は、継続的にするのですか。

答 わずかではありますが予算を計上し、支援を続けています。双葉町の現状については、CATVを利用してしっかりと町民の皆さんに伝えていきます。

問 震災がけきの焼却灰を受け入れられないこととなりましたが、今後要請があれば受け入れるのですか。

答 今後についても、自然界と同じレベルのものであれば、受け入れたいと考えています。危険なものを受け入れは行いません。

問 ごみ収集について、収集日から数日後に回収されることがあるのは何故ですか。

答 衛生管理組合のスケジュールで回収されていますが、排出されたごみの量によって、収集日に全てを回収できないことがあり、遅れることもあります。

問 空き家情報バンク制度とはどのようなものですか。近所に空き家が増えてきているので、積極的にPRしてほしいです。

答 町に空き家を登録していただき、必要な方に紹介をしています。今までに二件成立しています。積極的に進めていきたいと考えています。

問 家の修理をした場合に、補助金がある



と聞きましたが、どのようなものがあるのですか。

答 住宅改修については、介護保険のものと一般住宅改修があります。一般的な住宅改修については、工事費の割を補助するもので、上限額が十万円となっています。ただ、この補助金は耐久性の向上を図るなど、直接的な工事などが対象となります。

問 近くの家が空き家となって放置され、周辺の草刈りを好意で行っているが大変です。空き家対策をどのように考えていますか。

答 空き家に関する対策は、個別にケースが違うので、具体的な内容を区長さんなどを通じて役場にご相談ください。所有者に連絡するなど、対応をしていきたいと思っています。



味夢くんもお手製のギターを持って参加



オープニングを飾った和知太鼓保存会の演奏



応援グッズを手にした親子



地元産食材を使った食マルシェは大盛況

ライブの合間にはDJの西田育弘さんが食マルシェのブースを紹介



# 「音楽」と「食」のコラボレーション！ レトロロックフェス ティンパル in 京丹波

FMラジオ a ステーションのDJが京都市内の木屋町で開催している「レトロロックフェスティバル」。このたび京丹波町の「食」とともに「レトロロックフェスティバル in 京丹波」としてグリーンランドみずほで開催されました。台風が接近する中で行われたイベントの様子をお伝えします。

きつかけはあざむくへんにたすめる思い

今回のイベントは、高齢化が進むまちの活性化を望む人たちが実行委員会を組織して取り組みを開始。発起人の一人、丹波ワイン株式会社の代表取締役黒井衛さんを実行委員長に迎え、何もかもが初めての一大イベントに向けた準備を始めました。

台風が接近するも開催

イベントが行われた九月三十日は、前日から台風十七号の接近により開催が危ぶまれましたが、会場を屋内グラウンド「かがやき広場」に変更しての開催となりました。

午前十一時の開始を前に、待ちわびた観客が午前十時頃から会場に集まり、広場周辺の駐車場には、他府県ナンバーの車も見られ、イベントが始まる頃には、会場内には訪れた人の熱気が満ちていました。

オープニングに本町の和知太鼓保存会のメンバーが勇壮な太鼓の音色を響かせると、同保存会の太鼓の演奏を初めて目の当たりにする観客からも大きな拍手が沸き起こりました。

その後、a ステーションDJのしもぐち☆雅充さんや後藤晃宏さん、町観光協会が行う婚活支援事業「ときめきツアー」の司会もされているFM滋賀のDJ井上麻子さんが登壇。二人の熱のこもった歌声に会場が一つになりました。

来場者の雰囲気も最高潮に近づく午後四時過ぎ、台風が本町に最も接近した頃、しもぐちさんと、同じくDJの谷口キヨコさんによるユニット「リリイ喜代口 & ホセ雅口」が登壇。二人の熱のこもった歌声に会場が一つになりました。



会場は来場者でいっぱい



会場を沸かしたリリイ喜代口 & ホセ雅口

京丹波の「食」で来場者をおもてなし

ステージ上で熱いライブが進む中、会場内では、地元産の農産物などを用いた「食マルシェ」が開催。B級(Beans 級)グルメと銘打ち、黒大豆枝豆をはじめとした食材を用いた料理を販売するブースが並び、会場に訪れた人たちに「食の京丹波」をアピールしていました。

今後も地域の活性化を目指した取り組みを

今回のイベントは台風というアクシデントはあったものの、最終的に約六百二十人が参加する大きなイベントとなりました。

参加したスタッフらは「今年は台風の中での開催となったが、来年こそは野外イベントとして開催したい。」と意気込みを語っていました。

家族介護を通して男女共同参画を考える

きらりセミナーⅡ

# ワーク・ライフ・バランス 地域別 交流会

男女共同参画による豊かな地域社会づくりを進めることを目的に、町女性の会をはじめとした7団体で組織する「京丹波町きらりネットワークの会」。  
今回は、同会と京都府、府男女共同参画センター、町が開催し、92人が参加した、「介護を通して男女共同参画による仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について考える「ワーク・ライフ・バランス地域別交流会」についてお伝えします。



訪問看護を通じたチームケアなどについて話す寺谷さん

全ての人が情報を共有して対応するチームケアが大切。実際の介護は女性が行っているが、男性の精神的なサポートは大きく、一人で抱え込まないようにしてほしい」と日常の仕事の中で感じている介護者への思いを述べました。

このほか、NPO法人ユニバーサルケア代表理事の内藤健三郎さんが、同法人が行う高齢者の権利や財産を守る「成年後見制度」について説明したほか、綾部市福祉協議会地域福祉部総括管理者の山下宣和さんは、在宅介護支援センターでの相談業務の中で、最近相談が多い認知症について説明。「厚生労働省の調査では六十五歳以上の十人に一人が認知症という結果も出ています。支援を求めている人もいると思うので、まずは話し相手になるなど支援の方法はあるのではないかと思います」と、地

## 介護する人もされる人も 幸せな社会に



講演に聞き入る参加者

今回のセミナーでは、立命館大学教授であり、男性介護者と支援者の全国ネットワーク(男性介護ネットワーク)事務局長の津止正敏さんが「家族介護を考える」と題して講演されました。

津止教授は二〇〇九年三月に、年々増えてきている男性の介護者を支援することを目的に、男性介護ネットワークを発足。自らが開催した介護者の集まりにおいて、多くの中高年の男性が参加している状況を撮影した写真をスライドに映し、「これまでは介護や福祉の話に多くの男性が参加することはほとんどありませんでした。本日の参加者もほとんどが女性ですが、介護は女性」というイメージは過去のものになっています」と話しました。



成年後見制度の説明をする内藤さん

域でのつながりが介護の支援になることなどを話しました。

コーディネーターの浜野さんはパネリストの発言の合間にそれぞれの発言に対してセミナー参加者の考えを聞き、ある参加者は「介護をしながらボランティア活動に取り組んでこられたのも、地域の人などに支えてもらえたおかげ。感謝したい」と自分が家族を介護していたときの経験を述べていました。

最後に津止教授は「今回男性の介護者の話をしましたが、増えたといってもまだまだ女性の介護者のほうが多い。これからは介護に携わる新しい環境づくりを考えていかなければいけないと思います」と参加者に対し、高齢化が進む本町において、男女が共に携わっていく介護の必要性・重要性について話しました。



介護問題について講演する津止教授

男性介護ネットワークでは、男性介護者の体験談をまとめたものを発行しており、津止教授は「この体験記を買う人の中には、母を介護している父親の気持ちを知りたいという人もいた。介護している人にとっても、実際に介護を経験した百五十三人の体験記は、実写のようで、介護の参考書になるのでは」と、介護者に関わってきた経験から、体験記を求める人の思いを紹介しました。

また、「一九六八年に初めて国が実施した介護に関する実態調査では、ほとんどの介護者が女性(妻や息子の配偶者など)であったのが、二〇〇九年には三分の一が男性(夫や息子など)。介護者モデルも変わり、これはある意味時代を反映するものではない」と、女性が介護するものという概念はなくなり、男性も介護を行っている現状を分析しました。

ただ、男性は介護をしなければならなくなった時「家事や介護をすることを、新しい



パネリストの発言の合間に参加者に意見を求める浜野さん



認知症の方に対する支援について話す山下さん

いチャレンジ」と捉え、つらいことの中に新しい価値観を見出し、没頭する傾向があります」と津止教授は話し、「一方「主たる介護者である男性が倒れたとき、介護される人とともに共倒れになるケースがあります。このために介護する人を支援する制度が必要ですよ」と現状では介護者を支援する制度があまりないことを指摘し、自らが介護者を支援する法律を作る活動を行っていることを説明しました。

最後に「介護の問題は、介護保険だけでなく、社会政策全体で支えていく必要があります。介護する人が幸せでないと、介護される人も幸せにはなれないと考えています」と増えつつある男性介護者だけでなく、「介護」を取り巻く社会全体の今後の方向性について自らの考えを述べていました。

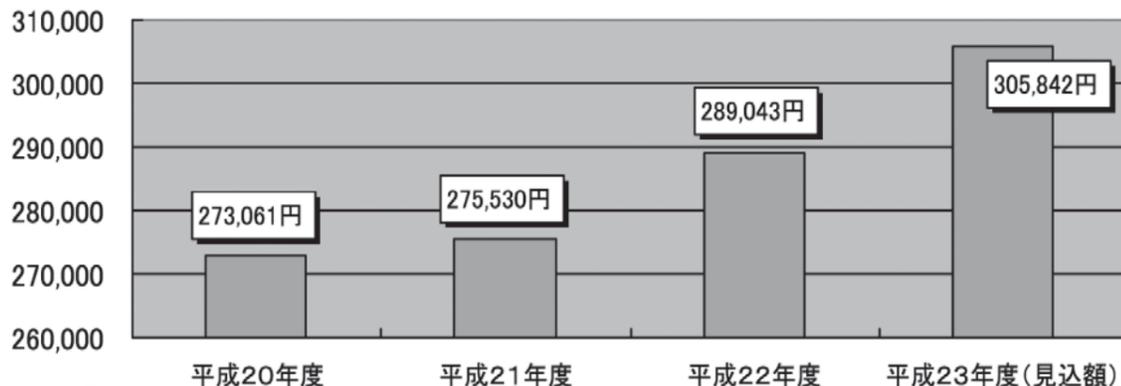
## 介護を取り巻く現場に携わる人たちからの提言

講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、京都府男女共同参画センター「らら京都」館長の浜野令子さんをコーディネーターに迎え、津止教授と在宅介護に関連した現場に携わる三人のパネリストがそれぞれの仕事の内容や介護に関する考えを述べました。

最初に意見を述べた町女性の会会長の寺谷すま子さんは、現在京丹波町病院の訪問看護師であり、担当する方の中には在宅で人工呼吸器を使用されるなど、重度の要介護者もある現状を説明。「介護に関わる

### 1人当たり医療費の推移

出所: 国民健康保険事業概要



## 医療費を大切に

### ～日常生活で私たちができること～

日頃から健康に留意し、いきいきとした自分らしい生活を送ることが医療費の節約につながり、さらに安定した国民健康保険の財政運営につながります。

そのために、皆さんには以下の点にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

- ① 特定健診を必ず受け、疾病の予防・早期発見を図りましょう。
- ② ジェネリック医薬品(後発医薬品)を上手に利用しましょう。
- ③ 薬は必要な分だけもらいましょう。
- ④ 同じ病気で複数の医療機関を受診することはやめましょう。
- ⑤ 休日や夜間の受診は救急の際を除きなるべくやめましょう。
- ⑥ これからの季節、インフルエンザなどの流行も予想されます。日頃から栄養と休養を十分にとり、健康管理に心がけましょう。

## こんなときは必ず14日以内に届出をお願いします

### 《届出先》役場住民課・瑞穂支所・和知支所

#### 国保に加入するとき

- ほかの市町村から転入したとき
- 子どもが生まれたとき
- 職場の健康保険をやめたとき
- 生活保護を受けなくなったとき
- 職場などの健康保険の被扶養者からはずれたとき

#### 国保をやめるとき

- ほかの市町村へ転出したとき
- 国保の被保険者が死亡したとき
- 職場の健康保険に加入したとき
- 生活保護を受け始めたとき
- 職場などの健康保険の被扶養者になったとき

#### その他

- 退職者医療制度の対象となったとき
- 世帯主や氏名が変わったとき
- 町内で住所が変わったとき
- 修学のため別に住所を定めるとき
- 世帯がわかれたり、一緒になったりしたとき
- 保険証をなくしたときまたは汚れて使えなくなったとき

【問】 住民課 ☎82-3803 CATV 382-3803

# 京丹波町国民健康保険の財政状況をお知らせします

日頃、病気やけがをしたときに医療機関で使用する健康保険。

その一つ「京丹波町国民健康保険」には町民の約30%の方が加入されています。

今回は、現在の本町国民健康保険の状況をお伝えします。



## 健康と医療を守る 国保制度とは

国民健康保険(国保)制度は、病気やけがをしたときに、安心して医療を受けることができるよう、お互いが助け合って医療費を負担し合う、最も身近な医療保険制度です。

国保制度は、職場の健康保険(健康保険組合や共済組合など)や後期高齢者医療制度に加入している人、生活保護を受けている人を除く全ての人が加入する制度で、その運営は、国や府、町などの補助金と、加入されている皆さんからの国保税で支えられています。

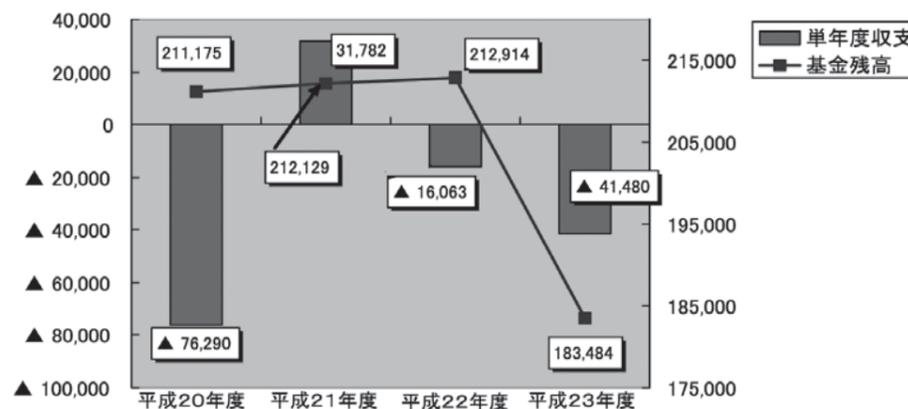
## 厳しい財政運営

本町国保の財政運営は、年々増加する医療費により、非常に厳しい状況となっています。

本町では医療費の増加を抑えるため、特定健診や健康教室などを積極的に推進し、疾病の予防や早期発見、早期治療の取り組みを強化していますが、年々増加する医療費に対し、昨今の厳しい経済情勢などにより、国保税収入は減少傾向にあり、収入と支出のバランスを保つことが困難な状況です。

平成二十三年度決算においては、支出額が収入額を上回ったため、財政調整基金(流行

単年度収支と基金残高の推移 (単位:千円)



病など予測しがたい医療費の増大に対応する目的で積み立てている貯金を取り崩して財源不足を補てんしましたが、その残高も減少しており、今後も、増え続ける医療費と収入や基金の減少とが相まって、さらに厳しい財政状況が予想されます。

### <国民健康保険特別会計決算の状況>

※単年度収支とは、歳入総額と歳出総額の差引額から基金繰入金と前年度繰越金を控除した額です。当収支額がマイナスの場合は赤字決算を示しています。

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
歳入	1,801,700,711円	1,825,835,013円	1,798,181,527円	1,834,715,851円
歳出	1,797,431,362円	1,790,846,796円	1,780,042,215円	1,828,626,889円
歳出対前年比	103.8%	99.6%	99.4%	102.7%
総収支	4,269,349円	34,988,217円	18,139,312円	6,088,962円
単年度収支	▲ 76,290,390円	31,781,742円	▲ 16,063,307円	▲ 41,480,255円
年度末基金残高	211,175,054円	212,128,568円	212,914,166円	183,484,261円



# いきいき健康術 第63回

## 『在宅患者さんのお口の手入れ』

このコーナーは、町立病院診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は和知歯科診療所医師の舟木健先生。高齢になると不十分になりがちなお口のケアに関するお話です。

**現** 在、約四人に一人が六十五歳以上という超高齢社会に突入し、介護が必要な方も年々増加の一途をたどっています。介護が必要になると歯科医院に通院するのも困難になり、自分自身でお口の手入れをする能力も低下してしまいます。

お口の中が汚れた状態が続くと、細菌が繁殖し、歯ぐきの溝にある血管から食べ物と一緒に体内に入り、次のような病気のリスクが高まります。

- ① 肺炎
- ② 心筋梗塞
- ③ 糖尿病

また、かんだり、飲み込んだりする能力が低下することで、栄養状態も悪くなります。

これらのことから、歯科医院に通院するのが困難な状況でも、お口の手入れが必要になってきます。そこで、在宅でもできるお口のケア方法をいくつか紹介します。

- ① 入れ歯用歯ブラシでの入れ歯の手入れ
- ② 口の乾燥に効果的な保湿ジェルの使用
- ③ 歯ブラシを使うのが痛い場合はスポンジブラシやうがいでの汚れを洗い流す
- ④ 口が開きにくい場合はヘッドが小さめの歯ブラシで汚れを落とす
- ⑤ 舌を出したり引つ込めたりする運動で飲み込む力の回復



舟木 健先生  
(和知歯科診療所)

このほかにも様々なケアがありますが、どうしても在宅でのケアが難しい場合は、歯医者さんや衛生士さんの訪問による指導が必要になってきます。歯科医院に通院ができず、在宅でのケアで困った事などがあれば、かかりつけの歯医者さんにご相談ください。

### 和知歯科診療所情報

和知歯科診療所では、平成二十四年四月から土曜日の診療を行っています。受診の際は、電話での予約をお願いします。また、通院が困難な方には、往診も行っていますのでご相談ください。  
☎ 84-11154

## 農地活用状況の説明

### 農地等活用ボランティア情報交換会

京都府を含む近畿地方の大学や企業、NPO法人などの担当者などが参加した農地等活用ボランティア情報交換会が九月二十八日に開催され、参加者約七十人が町内二ヶ所の現地見学を行いました。見学に訪れた質志地内のそば畑では、同地区を含む三ノ宮地域で農地の活用に取り組む三ノ宮地域農場づくり協議会の山田均会長が、京都府南丹広域振興局が行う「おいしい食の応援隊」のボランティアを受け入れて行った、畑周辺の草刈作業などの取り組みを紹介。継続してボランティアを受け入れる



そば畑を前に取り組みを紹介する山田会長(質志)

ことの難しさなどの課題を説明していました。

この情報交換会は、近畿農政局が行う「食と農」の結びつきプロジェクトの取り組みとして行われたもので、現地見学のほか、農地の活用に取り組む団体と企業が連携した事例の発表などが行われました。

## 高齢者による事故防止啓発

### 高齢者交通事故防止キャラバン隊

交通事故防止を目的とした、高齢者交通事故防止キャラバン隊による広報啓発キャンペーンが十月十一日、京丹波町を含む府内各地で行われました。

今回のキャラバン隊は、京丹波市から京都市までの各市町の役場などを経由し、それぞれの地元高齢者がリレー形式で啓発活動を行うもの。本町からは本年度高齢者死亡事故防止モデル地区事業を展開している水原区の高垣羽世継さんと保田道夫さんが参加しました。谷垣さんと保田さんは、本町の



交通安全旗を受け取り安全宣言を述べる谷垣さん(町中央公民館・蒲生)

## 住民ら巨大なダムに見入る

### 畑川ダム見学会

畑川ダム本体の完成が近づく九月二十三日と十月七日、地元住民を対象とした見学会が開催されました。

今回の見学会には、下山地内の住民約百七十人が参加。ダム湖の底になる部分に集合した後、京都府南丹土木事務所河川砂防室の

担当職員に案内されダム本体を見学しました。

参加者らは、ダム本体の貯水量を調節するしくみや、飲用水となるダム湖にたまった水の水质を保全する「ばつ気装置」などを間近に見ながら、担当者からの説明を真剣に聞いていました。

説明会の最後には、今回でダム湖の底に入ることができるのは最

後になることから、参加者らはダム本体を背に、参加した区ごとに記念撮影をしていました。

畑川ダムの本体工事は十月末には終わり、十一月からは、約三ヶ月かけてダム湖内に水を一杯までためて安全性を確認する「試験湛水」を実施。本年度中に完成の予定です。



そびえ立つダムを見学する参加者ら(畑川ダム・下山)

## 迫力ある太鼓の音色響く

### ■DONと来い・丹波八坂公演

下山小学校体育館で十月二十一日、DONと来い・丹波八坂公演が開催され、町内外から約三百人が来場しました。

今回の公演は、丹波八坂太鼓保存会(村上薫会長)が平成十年から開催しているもので、今年で十三回目の開催です。

昨年の公演は、第一回以来の地元開催とし、多くの方が来場されたことから、今年はさらに充実

した内容で取り組もうとの思いで「今年もやるぞ! やらいでか!!」をテーマに開催。村上会長は「皆さんの厚いご支持により保存会も四十一年目となりました。活力と元氣と一層の幸せが伝えられる公演にしたいと思っております」と公演に先立ってあいさつしました。

公演では、地元下山小学校の太鼓クラブの生徒十一人が日頃の練習成果を発揮し、丹波八坂の伝統曲「八坂」を演奏。力いっぱい太鼓

を打ち鳴らしました。

その後、保存会のメンバー九人が「八坂」や「北風南風」など、アンコールを受けての演奏を含め八曲を披露しました。

また、保存会の演奏の合間には、今回ゲストとして参加した府立園部高校吟詠剣詩舞部の生徒が剣舞と連吟三曲を披露。来場者らは、生徒の熱演に見入っていました。



会場内に響く力強い丹波八坂太鼓(下山小学校体育館・下山)

## くり振興に新商品も一役買う

### ■京都丹波くりまつり

丹波を代表する秋の味覚「くり」をPRする平成二十四年京都丹波くりまつり(同まつり実行委員会主催)が十月六日、丹波マーケスの丹のまち広場などで開催されました。

会場では、大きく実った丹波くりの即売や、会場内で作られた焼きぐりやくりもちの販売が行われたほか、須知高校食品科学科の生徒が実行委員会と共同で開発した

くりソフトクリームを販売。この新商品を買いたい求めようと、親子連れなどが列を作りました。

また、前日の十月五日には、JA京都丹波支店で京都府丹波くり品評会の審査が行われ、町内からも四人と一社が入賞しました。このうち地域賞を受賞した二人は、くりまつりの際に行われた表彰式で表彰状が授与されました。入賞者は次のとおりです。

### ■京都府丹波くり

#### 品評会入賞者(敬称略)

- 【京都府特用林産振興連絡会長賞】  
山内善継(市場)
- 【全国農業協同組合連合会京都府本部賞】  
木材開発(株)
- 【(社)京のふるさと産品協会賞】  
白樫貢(下二見)
- 【地域賞:京丹波町長賞】  
澤田久子(橋爪)
- 【地域賞:京都農業協同組合理事長賞】  
片山隆夫(安栖里)



くりソフトクリームを販売する須知高校生(丹波マーケス・須知)

## ボランティアが収穫を支援

### ■南丹おいしい食の応援隊

十月十三日、安井区と塩田谷区の住民有志で組織する農業組合法人・京丹波ほたるの里(谷山建夫代表理事)で南丹おいしい食の応援隊による黒大豆枝豆の出荷に向けたボランティア作業が行われました。

この応援隊は、都市部の住民消費者)が京都丹波地域(亀岡市・南丹市・京丹波町)で農産物の生産活動に関わることで、地域の「地産地

消」を応援するもの。今回は亀岡市などから十六人が参加し、黒大豆枝豆の出荷に向けた枝葉取りを手伝いました。

亀岡市から参加した中村武司さんは「退職したことをきっかけに昨年から参加しています。今までこういう作業をしたことがなかったのですが、これからでもできる範囲で参加したいです」と、ボランティア活動への意欲を見せ、地元住民らとともに枝豆の出荷作業に取り組んでいました。



黒大豆枝豆の出荷作業を手伝う参加者(京丹波ほたるの里格納庫・安井)

## 特選三点など表彰

### ■交通安全啓発ポスターコンクール表彰式

九月三十日、和知ふれあいセンターで交通安全啓発ポスターコンクール表彰式が行われました。

今回のコンクールは、町内の子どもたちが自ら作品を制作することで交通安全意識を高め、交通事故を防止することを目的に行われたもので、町内の小・中学生が二百五十点を展覧しました。

表彰式では、特選として京丹波町長賞に藤巻拳さん(丹波ひかり小)、南丹警察署長賞に竹口菜々瀬



特選に選ばれた藤巻さん(和知ふれあいセンター・本庄)

さん(丹波ひかり小)、南丹船井交通安全協会会長賞に竹口杏香さん(蒲生野中)が表彰されたほか、優秀賞八点と佳作十五点が表彰されました。

今回応募された作品は、丹波マーカーなど町内三ヶ所において、順次展示されます。



同じく特選に選ばれた竹口菜々瀬さん(左)と竹口杏香さん(右)

## スポーツの秋真つ盛り

### ■シルバーオリンピック

瑞穂小学校グラウンドで十月六日、第七回京丹波町シルバーオリンピックが開催されました。

この大会は町内の六十歳以上の方の健康増進と親睦を図ることを目的に毎年開催しているもので、今回は三十二人が参加しました。

競技は、記録認定種目として五十メートル走やソフトボール投げなど五種目が行われ、最初の競技となった五十メートル走では、参加者らが二人ずつゴール目指して一生懸命走っていました。また、その後に行われた競技でも、参加者らは昨年までの記録更新に挑戦していました。

競技終了後には、現在の自分の体力を知る機会として体力測定が体育館で行われ、参加者らは楽しく話しながら握力や上体起こしなどを測定していました。



全力でゴールするランナー(瑞穂小グラウンド・橋爪)

## 秋 晴れのもと出会いを楽しむ

### ■グリーンランドみずほ de ときめきツアー

本町の観光PRとともに男女の出会いをサポートする事業「ときめきツアー」が十月八日、グリーンランドみずほで開催され、町内外から三十七人が参加しました。今回は施設内のマスターズ農園で特産の黒大豆枝豆とさつまいもの収穫体験を行った後、施設内の森林浴レストランに移動し、昼食にバーベキューなどを楽しみました。黒大豆枝豆の収穫体験では、事

前に分けられた六つの班ごとに七株ずつ収穫して重さ比べが行われた株の中でも、特にたくさん実っている株を探して収穫していました。昼食後のフリータイムには、グラウンドゴルフをしたり、同じテーブルとなった人同士が共通の話題で盛り上がりつつたりして交流を深めていました。ツアーの最後には、自分の連絡先やメッセージを記したカードの交換などを行っていました。



グラウンドゴルフ中に会話を楽しむ参加者(グリーンランドみずほ・大朴)

## 音楽と食を楽しむ野外イベント

### ■和音祭

農林業体験公園アグリパークわちで十月十四日、野外音楽イベント「和音祭」が開催。訪れた人たちは、地元出身者などが奏でる音楽を聴きながら、地元で収穫された秋の味覚を楽しみました。この祭りは、和知地域出身の村上左矢加さんなどによる実行委員会が主催。村上さんのほか、同じく和知地域出身の江本貴明さんや地元和知太鼓保存会など、八組が自然豊かな長瀬の地に音楽を響かせま

した。会場では、長瀬区による新米のおにぎりや新鮮な野菜の販売が行われたほか、わらぼうし作りやいも掘り体験も行われました。また、同区において共に地域づくりを進める近畿大学農学部環境管理学教室の池上甲一教授と同教室の生徒たちによる石釜で焼いたピザの販売も行われ、多くの来場者が買い求めていました。長瀬区の山口好信区長は「若い人が少ない地域なので、多くの人に



熱唱する江本さん(アグリパークわち・長瀬)

来ていただきにぎわうことは、大変うれしいです」と和音祭の盛会を喜んでいました。



来場者も参加した餅つき(アグリパークわち・長瀬)

## 都市住民と共に収穫

### ■丹波黒豆枝豆収穫祭

十月二十日と二十一日、大迫市内のほ場周辺で上和知中部村おとし委員会(白樫貢会長)主催の丹波黒豆枝豆収穫祭が開催され、京阪神から多くの方が訪れ、地元住民とともに秋の味覚の収穫体験などを行いました。

この取り組みは、同委員会が黒大豆枝豆の収穫などを通して、都市住民との交流を図り、地域の活性化につなげようと昨年に引き続き開催。初日となった二十日は、事前に参加申し込みがあった方だけでなく、府道沿いに立てた

看板を見た方なども来場し、地域の方と一緒に収穫し、多くの枝豆がなっている株を選んで収穫していました。白樫会長は「昨年開催した時に、来年も参加したいという声が多くあったことから、今年は栽培面積を増やしました。地域の人もがんばって参加してもらっているのだから、これからも少しずつ取り組み方法などを改善して今後も実施していきたいです」と、これからも地域の活性化に取り組む意欲をみせていました。



選んだ株を地元住民とともに収穫する参加者(大迫)

## 軽スポーツで交流

### ■身体障害者体育大会

町身体障害者福祉会(谷静夫会長)主催の第七回京丹波町身体障害者体育大会が十月十一日、町ふれあい広場で開催されました。今回の体育大会は、スポーツを通じて健康の保持増進と、旧町ごとの各支部間の交流を図ることを目的に平成十八年から毎年行われているもので、同福祉会の会員とホ

ランテニアなど約六十人が参加。グラウンドゴルフや輪投げのほか、フリスビーを目標となる輪の中に通して競うフライングディスクの三競技で交流を深めました。午前中に行われた輪投げでは、参加者が投げた輪が的に入ると、投げる順番を待つ他の参加者から大きな拍手が送られていました。



めがけて輪を投げる参加者(ふれあい広場・蒲生野)

### わたしたちの町

人口	16,283(-26)
男	7,692(-15)
女	8,591(-11)
世帯数	6,462(-6)
11月1日現在 / ( )は前月比	

### 義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,844,154円
復興支援募金	5,195,799円

\*平成24年10月31日現在

京都府南部豪雨災害義援金ご協力ありがとうございました  
平成二十四年十月三十日まで受け付けていました義援金については、皆さまの善意により、本町が開設した募金箱において総額十三万六千八百二十円のご協力をいただきました。  
この義援金については、日本赤十字社京都支部を通じ、被災者支援に活用されます。

## 力が地域を守る

■須知高校生  
飛び出し防止看板寄贈

町内の交通事故防止を願い制作された「飛び出し防止看板」が十月十八日、須知高校の生徒七人らにより町教育委員会へ寄贈されました。

この看板は、同校普通科二年生のうち、選択授業として美術の授業を受ける生徒十五人が、昨年取り組んだラッピングバスに続く取り組みとして六月下旬から週二回

の授業で制作したものです。教育委員会を訪れた上田輝<sup>うへだ ひかる</sup>さんは「交通事故を減らしたい、地域に役立ちたいという思いから今回看板を制作しました。自分たちも将来免許を取ったら、交通ルールを守り、安全運転したいと思います」と、交通事故防止に対する思いを込めてあいさつを述べました。

今回寄贈された看板は、町内の幼稚園や小、中学校に届けられ、危険箇所に設置されます。



寄贈した看板を前に、談笑する生徒たち(町和知支所・本庄)

## 黄 金色に輝くカエル収穫

■「あっぱれたんぼ」  
稲刈りイベント

今年で四回目を迎える「あっぱれたんぼ」の稲刈りイベントが十月八日、丹波自然運動公園付近のほ場で行われ、町内外から集まった家族連れ約百七十人や地元曾根区の住民が参加しました。

「あっぱれたんぼ」は、田んぼをキャンバスに、色の異なる稲を使ってカエルを描いたもの。五月二十七日に植え付けた苗が成長し、くつきりと浮かび上がった絵柄を前に、

子どもたちからは大きな歓声があがっていました。

地元住民たちの手作りのかかしが見守る中、参加者らは一斉に田んぼに入り、品種が混ざらないように注意しながら鎌を使って稲を刈り取っていき、心地よい汗を流していました。

会場では、もちつき体験や丹波くりのつかみ取りなど秋の味覚を満喫できる催しのほか、満開のコスモスの摘み取りも行なわれ、参加者らは楽しいひとときを過ごしていました。



品種ごとに分けて稲を刈り取る親子(曾根地内)

### 京丹波町のシンボル

【町の鳥】  
うぐいす



【町の木】  
イチョウ



【町の花】  
つつじ



今回の表紙は、本年度中に老朽化により大部分が解体される旧和知第二小学校校舎とその前に立つ町の木「イチョウ」にしました。

誰も自分が卒業した学校がなくなることはやはり寂しいものであり、かくゆう編集子が卒業した小学校も校舎こそ残っていますが平成23年3月をもって閉校となりました。その校舎は、現在、地元の団体が地域活性化の拠点として、いろいろと模索しながら活用しています。

同校の校舎跡地についても、これから活用方法が決まり、新たに皆さんの思い出を作る場所になればと思っています。(T)

編集後記